



畑の面積 : 0,27 ha
 Age of the vines : 35 years old
 Average annual production : 1 200 bottles
 Grape variety : Pinot Noir

Localisation :

このワインは二つの畑から造られている。《レ・ヴィニュロンド》《レ・ミュルジュ》という名で、互いに近く、どちらもニュイの町の北側に当たる。丘の斜面の下部3分の1のところろに位置し、表土は砂っぽく、非常によく水をしみ通す。

このワインの特徴は、ニュイのプルミエクリュらしい力強さと、溶け込んだタンニンがヴォーヌの近隣であることを思い起こさせる、二元性にある。熟成の遂げ方は秀逸である。

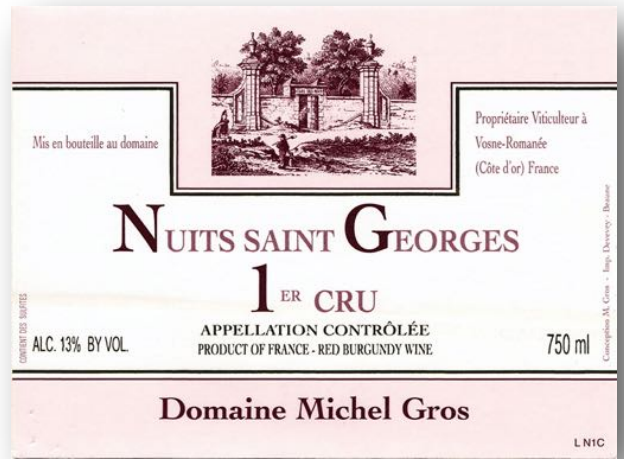
2013年はまたしてもブルゴーニュのヴィニュロンたちに手厳しい試練を与える年となりました。醸造所に健康なブドウを持ち帰るためには、シーズン中、ベト病とウドンコ病との熾烈な戦いを強いられましたのです。

5月という季節を迎えても月間通じて寒々とした雨に見舞われ、そのことが大きく起因して収穫が遅れました。私たちのドメーヌでは10月6日にヴォーヌ・ロマネの畑からブドウを摘み始め、17日にオート・コートで終わりました。この年より遅い収穫年といえ、1978年まで記憶を遡らなければなりません。開花後期の天候の崩れが原因で花振るいが多く見られ、殆ど全ての房がミルランダージュとなって小さな粒を纏いました。そのため、平年と比べ収量は30~40パーセント落ち込みました。

しかし、このミルランダージュこそがヴィンテージを救うことになったのです。

7月に暑い日が差した以外はパツとしなかった夏の不順な天候下でも、負担の少ない小ぶりのブドウ房はパーフェクトに熟してってくれました。

粒が小さく隙間があるミルランダージュの房でなければ、収穫前に続いた数日の雷雨でボトリティス菌が蔓延し、やっと目の前にした収穫物が壊滅していたかもしれません。そして、果汁の少ないミルランダージュだからこそ実現した濃い色。結実不良により種が無かったり種のサイズが小さかったりすることが幸いした、タンニンの突出しないバランスがとれた自然の凝縮。



成熟が遅れ、比較的冷涼な気象状況のもとでブドウが熟成の最終段階を遂げた為、誕生したワインは濃いフルーツのアロマを丸ごとフレッシュに蓄え、夫々のテロワールの個性をくっきりと描いています。酸のレベルが高いことはワインの長熟性を示し、一方、低いpHで証明されたこの高い酸味は、タンニンがすでに溶け込んでいるリッチなテクスチャに抱擁され、テイティング上ではさほど目立たないのです。

結果として、2013年のワインはすでに誘惑的な魅力を呈し、ハーモニー、バランス、鮮烈な強さと緻密なアロマを持ち合わせています。ポテンシャルが高く、言うなれば1993年に類似する特徴があり、1993年といえ、今日飲んでもなお素晴らしい有望なヴィンテージなのです。

プレスレビュー

Sarah Marsh, Winter 2014, The Burgundy Briefing N° 16

This is supple and smooth, you taste the higher percentage of new oak here (50%). Dark fruit, lovely maturity of forest fruits; surprising ripeness of aromatics and flavours. Quite a plump mid palate; rounded, but trim (this vintage carries no weight), but has excellent concentration. There is velvet texture to the tannins and a good fresh lift on the finish. Score 18.

Allen Meadows, January 15, 2015

A ripe and very fresh nose displays notes of red currant, earth, underbrush and a vague smoked meat character. Here too there is a lush and succulent quality to the velvety middle weight flavors where the typical Nuits rusticity is muted if not completely invisible on the solidly complex and persistent finish. There is a touch of wood present on the backend but the concentration is such that this should have no trouble integrating it by the time the tannins are resolved.

今飲んで **91** ポテンシャル **92+** 飲み頃予想 **2022~2045**

僅か4樽。つまり1,000本強だけ。で、香りは半開。よって1erらしくてとてもいい香り。果実が凝縮気味で、きれいな土の香りがたっぷり。ミネラルによる上質感も見事だ。口に含むと味も半開。よってとても美味しい。目がキュッと詰まっており、高い酸度ではあるものの他の要素も高いレベルなので調和感がある。上位のキュヴェになるほど他の要素の強さから酸がマスキングされ、とてもバランスがいい。これは96年の再来だ。ただし、96年より肉付きが良く、かつその当時の新樽濃厚系ではない(グロさんはそうじゃなかったけど)。やはり13年はとても良いヴィンテージだ。(15年06月試飲)